

突発性発疹

？ どんな病気なの？

ヒトヘルペスウイルス6型もしくは7型に感染したことで起こる病気です。その多くは親や保育者などの大人の唾液中に含まれるウイルスを介して感染するといわれています。そのため生後6カ月～1歳くらいの感染がもっとも多く、遅くても2～3歳までにはほとんどの子どもが感染します。季節を問わず、1年中感染の可能性があるため、型の違いで2度かかることも。

初めての発熱が
突発性発疹
ということも！

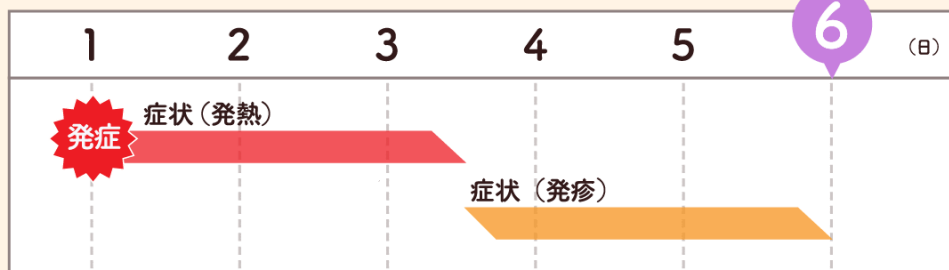


突発性発疹の特徴

かかりやすい 時期	かかりやすい 年齢	感染経路	感染力	潜伏期間
通年	生後6カ月～1歳	飛沫	低	10日

発症から完治までの目安

治るまでの目安は6日



具体的な症状 ▶▶

突発性発疹

？ どんな症状がでるの？

約10日間の潜伏期間を経て、突然、38度以上の高熱が3～4日続きます。その後、熱が下がるのと同時に赤い発疹がお腹を中心に現れ、背中や顔、手足など全身に広がります。発疹にかゆみはなく、3～4日ほどで治まります。食欲不振や下痢などの症状を伴うこともありますが、全く症状が現れない場合もあります。

熱が下がると同時に
赤い発疹が全身に！



突発性発疹にみられる症状

- ☐ 38～40度の高熱
- ☐ 解熱後、全身に赤い発疹が出た
- ☐ 下痢をしている
- ☐ ぐったりして、水分もとれない
- ☐ 瞼の腫れ、大泉門の腫れ

元気そうなら、
おうちで様子を
みましょう。

突発性発疹は熱が下がり、体に発疹が現れたことで初めて診断されます。生後3カ月未満の赤ちゃん、もしくは、体がぐったりしていたり、水分がとれないようであれば、病院へ。



突発性発疹

！ 合併症にも要注意！

高熱を伴う突発性発疹の場合、熱性けいれんを起こしやすい傾向があります。また、ごく稀に脳炎や脳症を発症することもあります。けいれんが長引いたり、呼びかけに反応しないなどの症状がみられたら、すぐに病院へ。

経過観察が
大事！



！ 治療法

突発性発疹には特別な治療法はありません。熱があつてぐったりしていたり、水分がとれないなどの場合は、解熱剤で症状を和らげる治療を行います。それほど症状がひどくなければ、おうちで安静に過ごし、自然に症状が治まるのを待ちましょう。

特効薬はなく、
自然治癒が
基本！



発疹自体はかゆみや痛みを伴わないので、特別なケアは必要ありません。3～4日ほどで症状は自然と治まるので、慌てずに様子を見ましょう。

突発性発疹

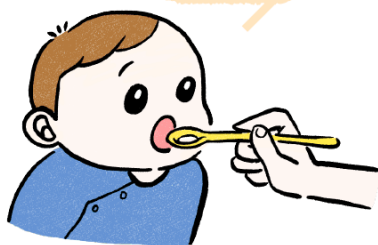
🏠 ホームケアのポイント

突発性発疹は高熱が出ても機嫌がいいのが特徴です。意識があり、食欲もあるなら心配いりません。便がゆるければ消化のいいものを与えてください。

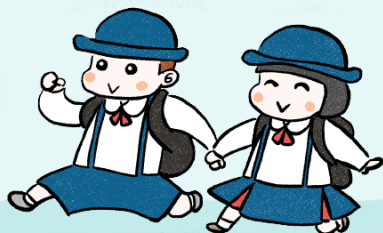
水分補給

発熱時に気を付けたいのが水分補給です。特に熱が上がり切ると体がほてって汗ばみ、呼吸も荒くなるので、脱水症状を起こすことが。そうならないためにも、こまめに水分補給をしてください。授乳中の乳児は母乳やミルク、幼児はお茶やぬるま湯、乳幼児用イオン飲料、経口補水液などを少量ずつ与えるといいでしょう。

脱水症には
気を付けて！



保育園や幼稚園は
いつから通える？



登園の目安は5～6日後

熱が下がり、体調や機嫌がよければ問題ありません。